

むささび

第45号

令和4年1月31日発行

JForest 北信州森林組合

〒383-0061 中野市大字壁田938-1

TEL:0269-38-0371 FAX:0269-23-5350

URL <http://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>

E-mail musasabi@jforest-kitashinshu.or.jp



事業連携による安曇野市での松くい虫被害地の樹種転換事業。 関連記事 4ページ。



組合ホームページもあります。ぜひ、ご覧ください！
<http://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>
スマートフォン対応となっています。

主な内容

年頭のごあいさつ	2
設立20周年記念事業について	3
松本広域森林組合との事業連携	4
湯田中地区で刈払機安全作業指導	5
役員安全パトロールを実施	5
県議会会派「改革・創造みらい」が視察	6
これからの木材活用セミナー	6
下高井農林高校生にインターンシップ	7
高社中学校SDGsの取組が完結	7
高社小木工クラブ指導	8
中野小SDGs学習	8



年頭のごあいさつ

北信州森林組合

代表理事組合長 清水 侃



あけましておめでとうございます

組合員の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、国内では東京五輪・パラリンピックが、ほぼ無観客での開催となり、また、菅政権に代わって岸田政権が誕生、海外では、9.11 同時多発テロから 20 年、米軍のアフガン撤退などの大きなニュースが続きました。

新型コロナウイルス関連では、10 月の緊急事態宣言解除後、飲食や宿泊など外出関連業種を含め、経済活動の再開が進む中、オミクロン株による感染も広がりを見せています。先行きに注目しながら一日も早い生活の回復・安定が強く望まれます。

さて、令和3年度、当組合は、これまでの“除雪収益頼み”といった感の強い経営体質を改善する試みとして、当地域では積雪で山仕事ができない春先と年末、安曇野市の穂高・明科地籍の森林整備を事業連携し、実施いたしました。また、組合員の皆様からの受託事業は、森林環境譲与税を原資に各市町村からの嵩上げ補助を受けて実施し、委託者へもより有利な還元ができました。

国有林整備事業や利用事業室の業務も順調なことなどにより、計画を上回る決算を見込んでおります。ご支援、ご協力いただいた組合員の皆様、関係各位に改めて心より御礼申し上げます。

長い間、低迷状態の木材価格は、コロナ禍に関連した外国の住宅需要の高まり等により“ウッドショック”を引き起こしました。当地域においても、スギ、カラマツを中心に高値が続き、特に品不足は深刻な問題となっています。国内の住宅建築事情がこれをきっかけに国産材活用へと緩やかにシフトできるよう、広範な業種の連携した取り組みが求められます。

今年は、森林組合系統運動方針「JForest 北信州森林組合ビジョン 2030」がスタートします。林業関連団体等の協同の方針に沿って、当組合の独自性を盛り込むため、現在検討を進めています。新たな森林管理制度の主体となる市町村との連携・協力体制や、森林組合法改正に伴う経営の強化体制など新しい課題も盛り込んだ 10 か年計画です。4 月の通常総代会で提案、お認めいただいたうでのスタートとなります。

当組合は、平成 13 年の合併以来、大勢の皆様を支えられ、20 周年を迎えました。4 月には、記念式典及び記念誌発行を予定し、準備を進めています。

今年も役職員一同、一生懸命頑張りますので、組合員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

本年が平穏な 1 年でありますよう、また、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、挨拶といたします。

組合発展のため頑張っています

職員一同	代表理事	副組合長	総務部長	業務部長	総務副委員長	業務副委員長	業務副委員長	総務副委員長	業務副委員長	業務副委員長	業務副委員長	業務副委員長
西高方俊也	森和樹	佐藤雄	小嶋治	龍澤實	関山保典	丸山隆久	丸山隆久	吉池茂敏	藤澤敏孝	平田幸男	竹内義明	清水侃



松本広域森林組合との事業連携

3月に松本広域森林組合から、安曇野市明科地区のアカマツ林の樹種換事業を請負ったことから、冬季事業に移行する11月12月に、再び樹種換事業を請負うこととなりました。

冬季事業への移行する期間にあつては、管内では大雪となつて春まで重機や資材が運び出せなくなるなどの心配があります。そのため、常に撤退を意識した中での作業となつてしまいます。

中信方面では、当地とは違い、そうした大雪の心配もなく、冬季事業が本格化するまでの間、集中して作業ができるという利点があります。



プロセッサでの造材作業



グラブで集積作業



生産したアカマツ材



木材生産作業の跡、この後に地拵え作業を行います。

中信地区では、松枯れ被害が広範囲にあり、また、労働力や重機などの課題もあり、松枯れ被害対策事業の遂行に苦慮されている状況です。

そうした中で、当組合では、積雪により森林整備事業に入れない、春先や冬季事業への移行期間での協力が可能であるのではということ、長野県森林組合連合会などを通じて、松本広域森林組合との事業連携を始めました。

このことにより、従来事業が手薄となる時期に、無駄なく作業ができ、高性能林業機械の稼働時間も増えることから、組合運営にとつても、たいへん良好な結果となっています。

遠方への通勤となるため、運転を行う者の健康状況など配慮しながら、安全な作業が行えるよう心がけています。

立木の形状が真っ直ぐだったり、現場状況も当地よりも良いことから、当組合がこれまで培ってきた林産作業技術が十分に発揮できて、よい仕事を提供できているようです。

湯田中地区で刈払機安全作業指導

一茶の散歩道周辺整備を行うための講習会

10月26日に湯田中地区里山整備利用推進協議会の依頼で、刈払機の安全作業の指導を行いました。湯田中地区で令和元年に里山整備利用地域認定を受け、一茶の散歩道周辺の整備を行っています。当組合では、協議会からの依頼で、毎年刈払作業と伐採作業の安全指導を行っています。

今年も刈払作業の安全講習会の講師として2名を派遣し、安全作業の指導を行い、27日からは伐採作業の技術指導を3日間行いました。皆さん熱心に講習を受けていただいております、これまでケガもなく作業をされています。

これらは、里山整備利用地域への、森林税の補助で行われた事業ですが、湯田中地区の皆さんの努力により、一茶の散歩道が整備されております。



刈払機の安全作業講習会



刈払い作業の実践研修

役員安全パトロールを実施

8月4日と10月6日に、業務委員会による安全パトロールが実施されました。8月は飯山市の搬出間伐現場をパトロールし、10月には野沢温泉村の搬出間伐現場と支障木伐採現場をパトロールしました。

機械の点検簿や作業者間の連絡方法などチェックが行われ、適正に行われていることを確認しました。

支障木伐採では、作業を初めて見る者も多く、様々な意見が出されました。今回パトロールした現場は、道も狭く、大型の機械も使えなかったり、斜面での作業であったりと、制約された中で作業でした。

安全には配慮して作業を行っていますが、見る人が違うことで、見落としていた安全課題も出てきますので、今後も、こうした安全パトロール等、より安全作業向上のための取組みを行ってまいります。



飯山市の現場で造材作業を確認



野沢温泉村の現場で班長から説明を受ける



組合長、参事、業務課長代理で対応しました。

また、境界明確化を行った森林について、そのことを有効活用するため、排出権取引制度などについて意見交換させていただきました。

当組合からは、木材生産を拡大し、森林整備を進めるための、林道等の路網整備など基盤整備についてお願いしました。

また、境界明確化を行った森林について、そのことを有効活用するため、排出権取引制度などについて意見交換させていただきました。

8月31日に、長野県議会の会派「改革・創造みらい」の皆さんが、ウッドショックに関して当組合を視察されました。代表代行の荒井武志さん、幹事長の小林東一郎さん、幹事長代理の埋橋茂人さん、副幹事長の続木幹夫さん、副幹事長の中川博司さんの5名が来所されました。

ウッドショックによる当組合への影響について聞き取りされました。丸太価格については、値上がりはしているものの、建築現場での製品価格ほどの価格上昇はありませんが、流通面では需要が増加している旨を説明しました。

長野県議会会派「改革・創造みらい」が視察

WOOD CHANGE!
これからの木材活用セミナー



隈研吾氏の講演



建築家の隈研吾氏を招いて「なちゅら」で開催

阿部知事が会長を務める「日本みどりのプロジェクト推進協議会」が主催する「WOOD CHANGE! これからの木材活用セミナー」が10月21日に飯山市文化交流館「なちゅら」で開催されました。

「なちゅら」を設計した隈研吾氏のほか、長野庁木材利用課の小木曾純子氏、ノースジャパン素材流通協同組合の鈴木信哉氏、フィンランドビジネスエンスーのティモ・ターバナイネン氏などにより講演が行われました。

講演の後に、長野県の元林務部長で森林経営アドバイザーの山崎明氏をコーディネーターにフリーディスカッションが行われ、木材利用や人づくり、マーケティングなど、様々な討議が行われました。

当日は、コロナ禍の中で、林業関係者や木材関係者など、会場150名、リモート200名の参加者があり、当組合からは役職員20名が参加しました。

下高井農林高校生にインターンシップ



林野庁から全国林業研究グループ連絡協議会に委託され実施されています「未来の林業を支える後継者育成事業」によるインターンシップを、北信州の森林と家をつなぐ会から委託され下高井農林高校生に実施しました。

今年も、新型コロナウイルスの感染防止のため、時間のかかる移動ができないことから、学校に近い範囲での研修となりました。

3年生はグリーンデザイン科の森林活用コースを対象に高性能林業機械操作とチェーンソー操作の研修を行いました。高性能林業機械研修では、搬出間伐現場でプロセッサでの枝払い造材作業とフォワーダへの丸太の積み込みと荷下ろし作業を体験しました。初めての実践体験ということで、職員の指導に従い慎重に操作をしていました。

2年生はグリーンデザイン科を対象にICT研修としてドローン操縦の研修を行いました。今回は木島平村の支援もあり、ドローンも3台使用しましたので、昨年よりも長時間の操縦ができました。中には手慣れた生徒もいて、指導する職員も感心していました。

5月の伐採から始まった中野市立高社中学校のSDGsの取組において、完成したベンチを中野市へ寄付したいということから、9月30日に中学校に湯本市長を迎えて贈呈式が行われました。生徒から完成までの経過説明をして、市にベンチが贈呈されました。市では当面は市民体育館で使用し、リノベーション工事後後に市民会館で使用するということです。

生徒達がベンチと一緒に製作しました、木工品をPTAなどに販売した売上で、サクラ苗木4本を購入いただきました。その内の2本は、生徒達から高社小学校に贈られました。12月10日に小学校で贈呈式を行い、組合職員の指導で生徒達が苗木を植栽しました。そして、中学校に戻ってから、校庭に残りのサクラ2本を植えました。これで、伐採し、製材、そして製品を作り、販売し、その売上で木を植えるという、生徒達が希望したSDGsの取組が完了しました。

高社中学校SDGsの取組が完了



高社小学校の木エクラブの指導を行いました

今年も、中野市立高社小学校から木工クラブの指導を依頼されました。今年は6回で行うということで、女子児童の参加もありました。6月から始まりましたが、2回目までで板を切る作業が終わりしました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大があり、3回目まで3か月間あいてしまいました。3回目から板を組み合わせる作業を行いました。板が乾燥しすぎたためか割れが続発するなどしました。そのため、割れを補強するために、キコリ時計工房さんから薄めの端板を譲ってもらい、巣箱内側から板の補強を行いました。

割れなどあつたことから、最後は外側に塗装をして完成することができました。それぞれ子供たちの個性あふれる巣箱が出来あがりました。春には、自宅の庭木などにかけるということで、小鳥が中で子育てをしてくれればと思います。



学校に展示された巣箱



中野小でのSDGs学習

中野小学校のSDGs学習

中野市立中野小学校からの依頼で、6年1組のSDGs学習の講師を行いました。

森林組合の紹介から、木を伐つて山から丸太を生産する工程等DVDを使って紹介しました。

特に、現在行っている間伐では、間伐することで、残った木が二酸化炭素を吸収して成長すること。伐った木を、木材として利用して家や家具などになることで、木が吸収した二酸化炭素が、長期間留まることなどを説明しました。子供たちも、たいへん関心を持って聞いていました。こうした学習により、木への関心が高まることを期待しています。

本 所

〒383-0061 中野市大字壁田938番地1
TEL 0269-38-0371(代)
FAX 0269-23-5350

利用事業室

〒389-2255 飯山市大字静間383番地14
TEL 0269-62-8111
FAX 0269-67-0120

編集後記

高校、中学校、小学校と学習のお手伝いをさせていただきました。森林組合は、地域での林業の専門家ですので、こうしたことを通じて、広く林業や木材への理解が広まることを望んでおります。

